

宇部市民オーケストラ

第4回

クラシックの午後

～気軽にオーケストラ

～山口大学医学部同窓会「霜仁会」創立50周年記念～

指揮・音楽監督：十川真弓

2002年9月1日(日)

開場13:00 開演14:00

宇部市渡辺翁記念会館

映画に使われたクラシックと 映画音楽特集

主催：宇部市民オーケストラ

共催：山口大学医学部同窓会「霜仁会」創立50周年記念事業実行委員会

後援：宇部市、宇部市教育委員会、山口放送局、TBSテレビ

KRY山口放送、YFH山口朝日放送、エフエム山口、朝日新聞社、毎日新聞山口支局、
読売新聞西部本社、ウベニ子新聞社、宇部時報社、(財)渡辺翁記念文化協会、宇部好楽協会、
宇部音楽鑑賞協会

本日は第4回「クラシックの午後－気軽にオーケストラ」にお越し下さいまして誠にありがとうございます。

今回は、初めて映画音楽を特集いたしました。第1回演奏会以来、皆様アンケートをお願いしておりますが、お褒めの言葉には大いに勇気づけられ、ご批判には反省して貴重なご意見を取り入れるよう努力してまいりました。「映画音楽」のご要望も沢山戴きましたが、未熟な私共に手がける余裕はなく、ポピュラー音楽を演奏することに躊躇しておりました。しかし、回を重ねるごとにその声も大きくなり、ご要望にお応えしないアンケートは意味がないという団内の声もあって、「クラシックと映画音楽」という切り口で選曲し演奏することに致しました。ご覧になった名画を思い浮かべて戴きながら、ごゆっくりとお楽しみ下さい。

尚、今回は山口大学医学部同窓会「霜仁会」と共催いたします。「学生時代からお世話になった市民の皆様にお礼をしたい」という企画に協力させて戴きました。霜仁会の皆様には、運営やチケット販売等に多大なご協力を賜わり感謝しております。ありがとうございました。

共催にあたって

山口大学医学部同窓会「霜仁会」会長
霜仁会創立50周年記念事業実行委員長

東 良輝



宇部市民オーケストラの「クラシックの午後」の開催おめでとうございます。そして、今回、霜仁会が共催させて戴くことになり一言ご挨拶申し上げます。

霜仁会は、創立50周年を迎えるにあたり、いくつかの記念事業を計画致しました。そのなかには、二つのアトラクションが含まれております。同窓会員が学生時代よりお世話になっている市民の皆様にご恩返しの一環として企画されたもので、一つは「プロによるオーケストラ演奏会」、もう一つはきらら博で“元気伝説”を演出した山本寛斎氏の文化講演でございます。

オーケストラ招聘については、故藤野巖前会長の「プロも宇部市民オケも同じ」という一言で、宇部市民オーケストラに演奏と、運営面でのご協力を申し出て共催のお願いを致しました。幸い市民オーケストラには佐藤団長をはじめ多数の医学部同窓生の団員がおられ、さらにオーケストラ後援会長の加藤山口大学長も霜仁会員ということでご快諾を戴いた次第です。宇部市民オーケストラは、発足間もないものの団員のご熱意と真摯なご活動は他のオーケストラに決して引けをとらないことを良く承知しておりますので、本日は皆様にとりまして楽しいひとときをお過ごしになれることと確信しております。

最後になりましたが、宇部市民オーケストラの益々のご発展をお祈り致します、と共に霜仁会にもこれまで同様のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

「映画に使われたクラシック」と「映画音楽」特集

プログラム

- 1、モーツァルト（1756～1791）作曲
映画「アマデウス」より
「交響曲第25番」ト短調 K183 第1楽章 (1773)
- 2、マックス・スタイナー（1888～1977）作曲
「風と共に去りぬ」より「タラのテーマ」 (1939)
- 3、チャールズ・チャップリン（1889～1977）作曲
「ライムライト」より「テリーのテーマ」 (1952)
- 4、レナード・ローゼンマン（1924～ ）作曲
「エデンの東」主題曲 (1954)
- 5、レナード・バーンステイン（1918～1990）作曲
「ウェストサイド・ストーリー」より抜粋 (1961)
- 6、ヘンリー・マンシーニ（1924～ ）作曲
「ティファニーで朝食を」より「ムーン・リバー」 (1961)

----- 休 憩 -----

- 7、ジョン・ウィリアムズ（1932～ ）作曲
「スター・ウォーズ」より「メイン・タイトル」 (1977)
- 8、フランツ・リスト（1811～1886）作曲
映画「たんぼぼ」（1985）より「前奏曲」 (1848)
- 9、久石 譲（1950～ ）作曲
「風の谷のナウシカ」より抜粋 (1989)

曲目解説

1、「交響曲第25番」ト短調 K183 第1楽章（1773）

映画「アマデウス」では、主人公のモーツァルトが、天才的作品を書くかと思えば下品で小悪魔的なワルガキとして描かれ、そのテーマ曲に「交響曲第25番」の第1楽章が使われたことは衝撃的でした。彼が17歳のときに作ったこの曲には、本来の天雅で愛らしいイメージを叩き壊すような激しさ、奔放さに満ちています。のちの傑作、「ドン・ジョバンニ」のテーマニッシュな激しさとともに、他のどの作曲家も表現することのできない悪魔の部分表現しているようです。

映画のラストシーンでは、精神病院に入れられたサリエリや生きとし生けるもの全てをいつくしむような天国的な美しさに満ちた「ピアノ協奏曲第20番」第2楽章で終わりますが、「シネマ・ミーツ・クラシック」の著者西村雄一郎氏は、「いわば対極にある2つの曲が、モーツァルトの持つ二重性、二面性をよく表わしているようだ。」と評しています。

2、「風と共に去りぬ」より「タラのテーマ」（1939）

「風と共に去りぬ」は、映画もさることながら、音楽もまた大変な名曲です。作曲はハリウッド映画音楽界の元祖的存在のマックス・スタイナーです。映画は、まず画面いっぱい「OVERTURE（序曲）」のタイトル文字が出て、それから5分間南部アメリカの景色をバックに、あの壮大な「タラのテーマ」が流れる…という具合で、彼の音楽が如何に大切にされているかがよくわかる作品でした。スタイナーの音楽は、ワーグナー流のライトモチーフを用いたところに特徴があります。この映画では、主人公のスカレット・オハラが育った土地「タラ」にも音楽テーマを与え、そのほかの7つのテーマと組み合わせながら存分に展開させています。

3、「ライムライト」より「テリーのテーマ」（1952）

1952年に作られた「ライムライト」はチャップリン最後の傑作です。あのせつなく甘い音楽とともに、老いることと、若さへのあこがれ…そんな情感が観るたびに心に深くしみわたる名作です。

チャップリンがアメリカの軍事戦略を批判したことから、この映画は折りからのマッカーシー旋風によって、長い間アメリカ公開を阻まれました。やっと公開が許されたのは20年後の1972年でした。そして、この曲は見事この年のアカデミー音楽賞を受賞したのです。チャップリンは、例によって製作、脚本、監督、主演、作曲、指揮、衣装デザイン、バレーの振付を一人でやってのけ、それが全部超一流のレベルで完成されています。彼が本当の天才であることをあらためて証明した作品です。

4、エデンの東（1954）

この映画は、小説家のジョン・スタインベックが、旧約聖書の「カインとアベル」を題材にして書いた長編小説「エデンの東」の一部を、名匠エリア・カザン監督が映画化したものです。

作曲者レナード・ローゼンマンは、ダラ・ピッコラやシェーンベルクに師事した前衛音楽の作曲家で、演奏会用作品も数多く書いています。映画音楽も、この「エデンの東」の他、理由なき反抗、蜘蛛の巣、ミクロの決死圏、続猿の惑星、バリー・リンドン、スター・トレックなど30を超える作品がありますが、この曲は世にも美しいメロディーのため、世界中の映画ファンに愛されています。

5、「ウェストサイド・ストーリー」より抜粋（1961）

作曲者のレナード・バーンステインは、皆様よくご存じのアメリカを代表する大指揮者ですが、アメリカを代表する作曲家でもあります。

1961年という年は、彼にとってまさに実り多い年でした。このブロードウェイ・ミュージカルを映画化したことで、世界中の若者に大ブレイクしましたが、本業の指揮でも、クラシックレコード史上、エポックメイキングなマーラーの「交響曲全集」の録音を始めた年でもあります。この全集は、世界各国でディスク大賞を獲得しました。…という次第で、1961年はバーンステイン42歳の、最もエネルギーに輝いた、記念すべき年でした。

6、「ティファニーで朝食を」より「ムーン・リバー」（1961）

ヘンリー・マンシーニの音楽は、都会的なしゃれたタッチで女優の美しさを一段と引き立たせる、と言われますが、この映画のほかにも「シャレード」で再びオードリー・ヘップバーンを、「ひまわり」ではソフィア・ローレンを、「グレート・レース」ではナタリー・ウッドを、「ピンクの豹」ではクラウディア・カルディナーレの美女群を彼一流の洗練された美しいメロディーで引き立てました。

マンシーニのスタイルが映画音楽に与えた影響は大変大きいものでした。彼の音楽以降、美しい主題歌やジャズあるいは軽音楽に占められ、厚ぼったい管弦楽は全く流行らなくなりました。シンフォニック・スコアは観客に飽きられ、また予算がかさむためにすたれる時代となったのです。

7、「スター・ウォーズ」より「メイン・タイトル」(1977)

映画評論家の柳生すみまろ氏は、ジョン・ウィリアムズについて次のように言っています。「…彼の数々の業績のうち最大のものは何かと言えば、それは、これまで安手の電気じかけの音楽が氾濫している時代であって、伝統的なアコースティックなシンフォニック・スコアを復権させたことではないだろうか?」と。1977年、スター・ウォーズにおけるシンフォニック・スコアの再登場は、それまで貧弱なバンド音楽のサウンドトラックばかり聴かされてきた映画ファンにとってどれほどの衝撃だったのでしょうか。伝統的なシンフォニック・スコアが復活した背景にはSFX(特殊効果)の目を見張る発達があります。驚異のSFX映像に負けないためには、フルスケールの管弦楽の音が必要だったのです。ウィリアムズのシンフォニック・サウンドは、電子楽器やシンセサイザーよりもはるかに宇宙の広さを感じさせてくれました。スター・ウォーズは、映画音楽史上特記すべき大事件でした。

8、前奏曲(1848)

この曲は、映画の冒頭から最後までですが、作曲者フランツ・リストがこの曲の楽譜の序文に「人生とは死によって開かれる未知の世界への“前奏曲”にほかならない。」と記しているのので、映画の登場人物群の人生を表わそうとしたのかもかもしれません。ところで、リストの人生は波乱万丈でした。若い頃は華やかな女性関係に彩られていますが、とりわけロシアのヴィットゲンシュタイン侯爵夫人との悲恋は映画「わが恋は終わりぬ」(1961)になり、人生の後半はワーグナーの不倫に悩む娘コジマを心配する父親像が「ワーグナーとコジマ」(1986)の映画になるという、まさに映画化されるにふさわしい一生でした。

9、「風の谷のナウシカ」より抜粋(1989)

この曲は本日ご来場戴いた小さな紳士淑女のために選ばれました。「風の谷のナウシカ」は、宮崎駿原作のコミックを作者自身が映画化し、音楽を久石譲が担当した名作中の名作です。久石譲は、尊敬するアメリカの優れたジャズ・アレンジャー、クインシー・ジョーンズに因んで「久石譲」というペンネームでスタートし、日本アカデミー賞最優秀音楽賞をはじめ数々の音楽賞を受賞しています。主な作品は、「となりのトトロ」、「魔女の宅急便」、「釣りバカ日誌2」、「仔鹿物語」、「ふたり」、「Sonatine」、「もののけ姫」、「HANA-BI」、「菊次郎の夏」など多数あります。

映画音楽の歴史

映画音楽は映画の誕生と同時に誕生しました。ルミエール兄弟によって初めて市民に公開された映画には、既にピアノ伴奏が付いていたそうです。その音楽は、勿論クラシックでした。愛の場面ではセレナーデが、戦闘の場面ではウィリアムテルの行進曲が、…という具合に、既成のクラシック曲のなかからその場面の雰囲気に応じて使われました。

話は逸れますが、劇と音楽との関係は古くギリシャ悲劇に遡ります。音楽は劇の進行に合わせて伴奏されました。その際、演奏者が舞台と客席の間で歌ったり踊ったりしたスペースを当時の人々はオーケストラと呼んでいましたが、これが後の管弦楽団の語源になったということです。

時代は下って、大作曲家ベートーヴェンもゲーテの悲劇「エグモント」に感動し付随音楽を作曲しました。ビゼーはドーデの戯曲「アルルの女」に、メンデルスゾーンはシェークスピアの「真夏の夜の夢」に、そしてグリークはイブセンの劇「ペール・ギュント」に素晴らしい音楽を付けました。

更に時代が下って、映画にも音楽が付随して作曲されるようになったのです。映画発祥の国、フランスではクラシックの作曲家達が、皆一様に音楽の新しいジャンルに興味を持ちました。1908年、まず大御所のサン・サーンスが歴史上初の「ギーズ公の暗殺」という映画専用の音楽を作曲し、次いでフランス6人組のオネゲルやサティーらも特定の映画の為だけの作曲に参加するようになります。

その後、各国の作曲家が積極的に映画音楽に参加しますが、1920年代からヒトラーのユダヤ人迫害によって、アメリカに亡命した音楽家が続々とハリウッドに集まってきます。

こうして映画音楽は、1930年代の後半に、アメリカの西部ハリウッドにおいて、マックス・スタイナーやエーリッヒ・コルンゴルト等ヨーロッパ生まれの作曲家達によって完成され、各社が競ってハリウッド音楽を作り黄金時代を迎えます。その音楽は、ドイツ後期ロマン派の流れを汲んだクラシック音楽のシンフォニック・スコアが主体でした。シンフォニック・スコアの繁栄は、その後約15年程続きますが、(ジョン・ウィリアムズによると)次第に飽きられ、TVの台頭、ヴェトナム戦争、アメリカ経済の不況などによって映画産業が衰退し、映画音楽も安上がりの電子音楽にとって変わられました。

1977年、「スター・ウォーズ」が公開された時、人々は画面だけでなくその音楽の素晴らしさに唖然とします。86人編成のロンドン交響楽団が演奏するジョン・ウィリアムズ・サウンドは、壮大に響かせるシンフォニーの快感を久し振りに観客に教えてくれたのです。このシンフォニック・スコアの復活以降、映画音楽の歴史は新しい段階に入りました。今や若手の作曲家も沢山の魅力的なスコアを書いて、ハリウッド音楽の第2期黄金時代が到来しているかのようです。

指揮・音楽監督

十川真弓

昭和32年 東京芸術大学音楽学部器楽科 (Vn) 卒業
昭和32年 東京フィルハーモニー交響楽団 (Vn)
昭和35年 日本フィルハーモニー交響楽団 (Vn)
昭和60年 山口大学教授
平成10年 山口大学名誉教授
平成11年 宇部市民オーケストラ音楽監督

司会：白松敦子

宇部市民オーケストラ出演者

- 1stVn ◎安永 恵 ◎笹本真理子 ◎内海俊彦 在田和子 生田真理
池田芳江 内田久士 大田美希 黒田志郎 佐貴政彰 中山仁美
久井のり子 山崎あづさ
- 2stVn ○清水治子 安楽由利子 池田英子 伊住浩史 上野 尚 栗林左知
近藤 哲 坂本直子 重藤美言 中村素子 永本晴美 縄竹俊子
長谷川 洋 山本顕子
- Vla ○濱野妙子 稲垣智子 市本久子 上野明弘 大石正興 国分秀基
山田容子 石森桂子(客演) 田中美幸(客演)
- Vc ○栗林宏明 大森 薫 中谷仁美 濱村和幸 原田圭子
明石奈津子(客演) 柳 親茂(客演) 米崎昌良(客演)
- Cb ○藤野 隆 弘中章司 国光日出生 杉村浩信 八木政治 横山達也
前川 亮(客演)
- F1 ○小賀真理子 品川知佐子 鈴木まさ子 高井寿永 藤井則子
竹本直子(団友)
- Ob ○宗國敦子 石村 愛 田嶋崇幸(客演)
- Cl ◎磯谷妙子 赤石純平 稲垣史郎 大村真奈美 崎永和子
- Fg ○金尾誓悦 小林太郎 福田敦宏
- Tp ○種田裕彦 長岡由紀恵 藤井晶宏 藤井淳子
- Hr ○柳井秀雄 河津弥恵 濱村典子 濱口美保(客演)
松田貢一(客演)
- Tb ○山本 忍 大村康一郎 山本麻衣子
- Tub 奥中淳夫(客演)
- Per ○高杉美佳子 栗野直樹 岡崎泰子 山元紀世子
- Hp 川口三値子(客演)
- ◎コンサートミストレス・マスター・管セクリーダー ○パートリーダー

役員

団長 佐藤育男 副団長 末永俊彦 栗林宏明 縄竹俊子
インスペクター 上野明弘 マネージャー 金尾誓悦
ステージマネージャー 稲垣史郎

第5回定期演奏会のご案内

日 時：2003年3月2日(日) 14時～ 於：渡辺翁記念会館
演奏曲目：チャイコフスキー交響曲第4番、ベートーヴェン交響曲第1番
指揮：広上淳一(元日本フィルハーモニー交響楽団 正指揮者)

後援会入会のご案内

本日、ロビーにて「宇部市民オーケストラ後援会」への平成14年度ご入会申し込みを受付けております。会費は年間3,000円でございます。ご入会戴きますと、①定期演奏会および「クラシックの午後」演奏会の手ケットの配布、②定期演奏会のCD一枚を次回ご来場時に配布、③年に2回会報の郵送という特典がございます。申し込み用紙も用意しておりますので、お友達にも是非お勧め下さいませようお願い致します。